

『ジールランドの野鴨』

■「IBMに学んだこと」

私は、哲学には不案内なのですが、IBMを通して、実存哲学者キェルケゴール(Kierkegaard)の「ジールランドの野鴨」という話を学んでいます。この話は、デンマークのジールランド地方のある湖に、毎年、翔んで来る「鴨」と老人の話です。毎年、越冬で飛来する「鴨」たちを見ていた老人がある時、その鴨たちに「餌」を与えるようになったのです。当然、鴨たちは、最初は警戒するが、一羽が味をしめると順々に、楽しんで餌にありつけることに味をしめるようになり、鴨たちは「餌」を求めて他の湖へ飛ばなくなったのです。このようにして、この湖に居ついた「鴨」たちは、ドンドン、野生を無くした鴨は家禽化してしまい、まるで「アヒル」みたいに肥えたのです。そして、ついには、羽ばたいても翔べなくなったのです。ある年、その老人が死んでしまいました。さあ、どうなるのか？もちろん、「餌」をもらえなくなった鴨たちは、自分で「餌」を獲らねばならないが、もう時はすでに遅しで、他の湖へ飛んで行こうにも翔べないのです。そして、春の雪解けで濁流が湖に流れこんで来て、鴨たちは、なすすべもなく押しながされたという話です。

まさに「甘い生活習慣」の恐ろしさを教えているのです。IBMの創業者トーマス・ワトソンは、この話に衝撃を受け「Be wild duck！」を合言葉にして、「餌を人間から与えられ、太って飛翔できない野鴨になるな、常に数千キロを命懸けで渡りゆく精悍な野鴨であれ。」と長年にわたって社員教育しているのです。

■「性格は顔に出る、生活は身体に出る」

この言葉は、ある女性から教えてもらったのですが、女性の間で言われているようです。なかなか、ズバリ！の表現なので、自分にグサリ！と来るものがあります。まず、「性格は顔に出る」という部分ですが、痩せぎす、目が釣りあがっている、口が大きい・・・と特長になる部分がありますが、単純に「こわそう！」という顔つきの方でも、話して見ると穏やかな人もおられるのです。後半の「生活は身体に出る」ですが、大食い女王と呼ばれる「ギャル曽根」さんですが、ナント45kgほどのようです。「痩せの大食い」という言葉があるように、大食漢だから太っているというものでもないのです。

では、私自身は、どうなのか？・いかにも「優しい」丸い顔つき、・いかにも「おっとり」している太った体形、であります。しかし、そうは言っても内心では、・「イラチ」で、ちょっとの間もジッとしていられないというのが本音なのです。確かに、「食事コントロール」をする必要があり、お医者様にも「減量」を促されています。

コンサルタントとして、お客様に「変革」を要求する立場なので、本来ならば、健康管理のためにも「減量」に取り組む必要があるのですが、現実には、その「減量」作戦が維持できないというジレンマを長年持ち続けているのです。誰でも同じなのですが、自分の行いは、都合の良いことばかりが目につくのですが、他人の行いは、欠点ばかりが目につくという矛盾した特性をもっているのです。ここを突付かれると「ギャフン」と言わざるを得ないです。しかし、「生活習慣」を変えて行かねばならないと思っています。

■「徳性・知能・技能・習慣」

実は、広島の木原先生から教わった事なのですが、安岡正篤先生(1898年-1983年:陽明学者・東洋思想家)は、「人格」を語るのに、「徳性・知能・技能・習慣」の4要素が絡んでいると教えて

頂いたのです。私の考えですが、「徳性」や「知能」や「技能」は、「蓄積」が効くものであり、最後の要素である、「習慣」は、「蓄積」ではなくて「持続」というものと区別しています。公式化すると、「人格」=（「特性」+「知能」+「技能」）x「習慣」となります。「習慣」というのは、一挙に、ゼロにもマイナスにもする大きなウエートを持っているのです。従って、「心」に思ったことを「行動」に移し、それを実現するまで「習慣」化することが大切なのです。

その重要性を松下幸之助翁は「訓」として、「心が変われば、行動が変わる。行動が変われば、習慣が変わる。習慣が変われば、人格が変わる。人格が変われば、天命が変わる」と教えておられます。最初の「心」へのインパクト度合いにもよるのですが、インパクトが小さいとすぐに満足してしまい習慣化される前に「元の木阿弥」に戻ってしまうのです。「嬉しい」・・・3日で忘れる、「感激」・・・3ヶ月で忘れる、「小感動」・・・3年で忘れる、「大感動」・・・一生、忘れない、まさに「初心」をすぐに行動に移して「架空」から「現実」にし、さらに、何度も徹底して実践することで「コツ」を得て、その「コツ」をハッキリと確認することで「信念」化し、自分のものにすることが大切なのです。

ところが、私もそうなのですが、ちょっとした思い付きのアイデアなどは、すぐに「あきらめて」しまうのです。「手応え」が必要なのですが、小さなことでは「かったるい」と不遜な態度になってしまうのですが、ホントは、この「小さな喜び」を大切にすれば、「活気」というものが「人」を集めるようになるのです。「習慣」は、ゼロにもマイナスにもなると書きましたが、「小さな喜び」を忘れてしまいやり始めたことをやめてしまうと、今までの蓄積がゼロになってしまうのです。

イエローハットの鍵山相談役は、別な角度で、「10年続ければ、偉大なり。20年続ければ、畏るべし。30年続ければ、歴史なり」と評価されています。「10年」はホントに偉大なもので、その「動機」の大きさ、深さだけでは続かないものと思います。論語の中で、孔子は、15才・・・志学（自分の道を志す）、30才・・・而立（その道で一本立ちする）、40才・・・不惑（その道でリーダーシップを発揮する）、50才・・・知命（天命を知って後継者づくりを行う）、60才・・・耳順（後継者を受容する）、70才・・・従心（思うがままに）と振り返っています。

私は、46才の時に開業して、経営コンサルタントの道を歩み出し、もう、12年経過したので、鍵山流では、「10年続ければ、偉大なり」なのですが、実は、58才になっているのに、「知命」の後半でありながら、「後継者」づくりが出来ていないのです。これからは、遅まきながらも「後継者」を育成したいと思っています。まだ、直接、「人材」が現れた訳ではないですが、多くの人たちにチャンスを与えられるように活動して行きたいと思っています。自分の得意なことで、若い人と接することができるように「仕掛け」を構築して行きたいと思っています。

■まとめ

・「Be wild duck !」（IBMの創業者トーマス・ワトソン）

・「性格は顔に出る、生活は身体に出る」

これを習慣で変えるのは、並大抵のことではない

・「徳性・知能・技能・習慣」は、数式化すると

「人格」=（「特性」+「知能」+「技能」）x「習慣」

であり、「習慣」でゼロにもマイナスにもなる

・イエローハットの鍵山相談役、

□10年続ければ、偉大なり

- 20年続ければ、畏るべし
- 30年続ければ、歴史なり